

2019年（平成31年）度 事業計画

第9期（2019年4月1日～2020年3月31日）

（1）主催公演（計41公演、前年40公演 前年比+1公演）

◆定期演奏会（11公演、前年度比±0）

ミュージック・アドバイザー 外山雄三指揮3回、客演指揮者（オーラ・ルードナー氏／シモーネ・メネセス氏／ガブリエル・フェルツ氏／ヌーノ・コエーリョ氏／川瀬賢太郎氏／マリウス・ストラヴィンスキー氏／本名徹次氏／トーマス・ザンデルリンク氏）の計11公演を開催。

2013年度まで、年間10公演を開催していた定期演奏会ですが、2014年度より経済的理由により、年間8回公演に減らしていました。以降、楽団の経済状況を改善し、出来るだけ早い時期にもとの10公演に戻すべく、努力してまいりました。

2018年度より法人会員の増加に伴い、会員特典に使用する座席数の確保のため年間3公演増やし、年間11公演の定期演奏会を開催しています。

資料：定期演奏会、チケット販売枚数と入場者数の推移

年度	定期演奏会		
	年間公演数	有料販売数（平均）	入場者数（平均）
2007年度	年間8公演	553席	1119名
2008年度	年間10公演	491席	1179名
2009年度	年間10公演	480席	1227名
2010年度	年間11公演	526席	1220名
2011年度	年間10公演	435席	1114名
2012年度	年間10公演	417席	1076名
2013年度	年間10公演	574席	1107名
2014年度	年間8公演	447席	1051名
2015年度	年間8公演	391席	1062名
2016年度	年間8公演	452席	1309名
2017年度	年間8公演	413席	1305名
2018年度	年間11公演中 終了した5公演の平均	351席	1072名

※ 有料販売席数は、チケット会員の販売を含む

◆いずみホール定期演奏会（3プログラム／6公演、前年比+0）

ミュージック・アドバイザー 外山雄三指揮1回、客演指揮者 豊嶋泰嗣氏、熊倉優氏各1回の計3プログラム／6公演を開催。いずみホール定期会員は 73名（昼・夜合わせて、2019年2月20日現在）の販売。

2016年度に再スタートしました「いずみホール定期演奏会」は、平日の昼と夜の1日1プログラム2回公演を続けております。少しキャパシティの小さな「いずみホール」において、オーケストラの編成も大阪交響楽団のオリジナル2管8型編成を基本に、名曲を中心に選曲。平日の昼の公演にも一定の需要が見込まれるが、広報宣伝不足もあり、チケット販売は低迷しており、聴衆開拓は抜本的に改革をしていかなければなりません。

◆名曲コンサート（5プログラム／10公演、前年比±0）

ミュージック・アドバイザー 外山雄三指揮1回、客演指揮者（佐藤俊太郎氏／柴田真郁氏／大井剛史氏／太田弦氏）4回の計5プログラム／10公演を開催。2019年3月1日現在セット券1812セットを販売。（2018年度、同時期販売数1951セット約7%減、2018年度最終販売数2030セット）

2018年度からセット券料金値上げをしたため、販売数減となっています。

一般販売料金 2017年度まで S席 10,000円／5回 A席 8,000円／5回

一般販売料金 2018年度以降 S席 15,000円／5回 A席 12,500円／5回

◆0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ”（大阪交響楽団企画の共催公演）

（3プログラム／6公演、前年度比±0）

ザ・シンフォニーホールとのジョイントベンチャーにより、2013年度より3プログラム1日2公演、計6公演を開催。2019年度は、7月30日（火）（夏休み）、12月24日（火）（冬休み）、2020年3月24日（火）（春休み）の3プログラム計6公演を開催。

◆特別演奏会・特別公演（3プログラム／4公演、前年比±0公演）

特別演奏会「感動の第九」 2019年12月27日（金）

第2回 四国定期演奏会（松山公演） 2020年 2月10日（月）

オーケストラの日コンサート 2020年 3月31日（火） 1日2回公演

毎年好評の特別演奏会「感動の第九」（12月27日）、オーケストラの日コンサート（3月31日）、の2プログラム計3公演を継続、2018年度からスタートした愛媛県松山市での「四国定期演奏会（松山公演）」を継続開催いたします。

◆共催公演（共催相手先企画の共催公演 4公演、前年比+1）

外山 雄三 三大オーケストラ 2019年 4月12日（金）

大阪4大オーケストラの響演 2019年 4月20日（土）

ライトシンフォニック～大人の贅沢～ 2019年 8月24日（土）

フェニーチェ堺 オープニング演奏会 2019年12月22日（日）

フェスティバルホールとの共催公演として「4大オーケストラの響演（2019年4月20日）」を、ザ・シンフォニーホールとの共催公演として、「3大交響曲（2019年4月12日）」、「ライト・シンフォニックコンサート（2019年8月24日）」、フェニーチェ堺オープニング「大阪交響楽団 バーンスタインズ スペシャルセレクション（2019年12月22日）」の4公演を開催。

(2) 依頼公演 (全67公演、前年68公演 △1公演)

依頼公演受注については、67公演を予定。シーズン中旬～後半(11月中旬～3月中旬)にかけては80%超の受注予定となっておりますが、シーズン初旬(9月～11月上旬)の稼働はまだ50%前後で推移しております。現在の確定受注は50数公演程度で、今後2017年度受注数87公演に近づけるべく営業活動を行ってまいります。

依頼公演総収入 約241百万円 (前年約293百万円 前年比△52百万円)

シンフォニーコンサート 16公演 (前年比+1公演 現在受注10公演 残り6公演は目標値)

ファミリーコンサート 19公演 (前年比+8公演 現在受注予想11公演 残り8公演は目標値)

合唱伴奏公演 4公演 (前年比+1公演)

学校鑑賞会 14公演 (前年比△3公演)

文化庁公演 9公演 (前年比△3公演、現在確定数6公演、追加公演3公演予想)

オペラ・バレエ公演 5公演 (前年比△5公演)

小編成公演 52公演 (前年比±0公演)

アウトリーチ公演 50公演 (前年比±0公演)

資料：公演数の推移

年度	主催公演	依頼公演	計	小編成公演	アウトリーチ
2005年度	26	74 (15)	100	7	
2006年度	25	62 (13)	87	9	
2007年度	25	81 (28)	106	10	
2008年度	25	83 (17)	108	8	
2009年度	25	88 (25)	113	10	
2010年度	25	73 (18)	98	7	
2011年度	26	73 (22)	99	14	
2012年度	24	83 (15)	107	23	
2013年度	23	70 (20)	93	32	
2014年度	23	81 (19)	104	26	
2015年度	28	88 (25)	116	33	
2016年度	35	71 (18)	106	31	
2017年度	38	87 (15)	125	53	50
2018年度	40	68 (12)	108	52	39
2019年度	40	68 (9)	108	52	50

※ 依頼公演の () 内は文化庁公演 (内数)

(3) 主催公演における、チケット販売強化への取組み

1) 普及活動・広報の充実

- ビジネスソリューション事業会社に業務委託をし、個人会員を獲得
定期演奏会・名曲コンサートの会場にて、ビジネスソリューション事業会社の販売員により、個人会員の勧誘を図る
- 新聞広告・駅貼り広告等への積極的出稿
公演ポスターを大阪市営地下鉄8路線116駅に掲示（公共情報コーナー）
公演ポスターを阪堺電気鉄道 電停約35か所に掲示
5大紙を中心に新聞広告掲載
- フリーペーパーへの広告出稿
0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ” 媒体：まみたん（フリーペーパー）
- ダイレクトメールでの発信
名曲コンサートや、いずみホール定期演奏会等 年3～6回 DM 約12,000通投函
2016年度DM 実績 6回（DM制作経費5,069,492円）
2017年度DM 実績 3回（DM制作経費2,990,107円）
2018年度DM 実績 3回（DM制作経費3,116,535円）
2019年度DM 予定 3回（DM制作経費3,500,000円）
- チラシ同梱（通販雑誌などの郵送カタログにチラシを同梱）
「2019年度名曲コンサート」などを
東急不動産 東急こすもす会 会報誌に同梱
他、健康食品通販カタログなどに同梱検討中
(理事会社様においても、会報誌等へのチラシ同梱など、ご紹介いただけると幸いです)

2) チケット販売チャンネルの拡充

これまでの提携先

- 株式会社ヤマハミュージックジャパンとのヤマハプレミアム会員優待提携
- 東急不動産株式会社、東急コスモス会員優待提携
- ベネフィット・ワン（官公庁や企業の福利厚生業務を行う会社）での販売取扱い
- 一般社団法人 中高年齢者雇用福祉協会（ないすらいふの会）での会員優待提携
- 株式会社自然総研（池田泉州銀行系）、TOYRO倶楽部会員優待提携
- 大阪府文化振興財団発行の「OSAKAメセナカード」、会員優待提携
- 大阪早稲田倶楽部、団体チケット販売提携
- 大阪府教職員互助組合や、大阪市職員互助組合での販売取扱い
- リーガロイヤルホテル、ロイヤルクラブ会員優待提携（大阪4オケ合同）
- JAF（一般社団法人 日本自動車連盟）との会員優待提携

今後、新規提携先を増やしていきたいと思っております。

3) 法人営業において、理事会社様・法人会社様へのアプローチ

- 社内メール等での演奏会の告知、チケット斡旋
- 取引先等へのインセンティブとして、演奏会チケットの活用提案

(4) 会員組織

2019年4月から、法人会員・個人会員を下記3つのコースに制度変更

- ・正会員（社員） 1口 100,000円 / 50,000円（消費税込み）
- ・サポーター会員 1口 108,000円※ / 50,000円（消費税込み）
- ・協賛会員 1口 100,000円 / 50,000円（不課税）

※ 消費税率改定後は新税率を適用

1) 法人会員

2019年1月31日現在、272社 906口

理事会社様、法人会員紹介キャンペーンで400口増、合計1300口を目標

資料：法人・個人会員の推移

年度	シェフ	定期回数	理事長会社	法人協賛会員（会期ベース）		個人会員（会期ベース）	
2005年度	大山	8	三洋電機	85社	248口	378口	
2006年度	大山	8	大和ハウス	154社	499口	312口	
2007年度	大山	8	大和ハウス	146社	484口	269口	
2008年度	児玉	10	大和ハウス	142社	465口	245口	
2009年度	児玉	10	大和ハウス	128社	420口	254口	
2010年度	児玉	11	大和ハウス	148社	458口	264口	
2011年度	児玉	10	大和ハウス	144社	458口	217口	
2012年度	児玉	10	大和ハウス	148社	475口	198口	
2013年度	児玉	10	大和ハウス	152社	475口	238口	
2014年度	児玉	8	大和ハウス	175社	585口	201口	
2015年度	児玉	8	大和ハウス	178社	625口	177口	
2016年度	外山	8	大和ハウス	249社	824口	164口	159口（※）
2017年度	外山	8	大和ハウス	276社	909口	176口	166口（※）
2018年度	外山	11	大和ハウス	272社	906口	160口	170口（※）

※ 2016年度以降の個人会員は、いずみホール定期会員と分けて掲載

2) 個人会員（2019年4月より新制度に移行）

2019年1月31日現在、18名 59口

2019年度目標、70口

3) 定期会員（特別マイシート、マイシート、エコノミー）

2019年1月31日現在、90名 101口

2019年度目標、120口

4) いずみホール定期会員

2018年1月31日現在、137名 170口

2019年度目標、200口

(5) 公益認定後の取り組み

- ① 特定収入に該当しない寄付金に係る確認申請（内閣府 寄付金に対する消費税減免申請）
- ② 個人府民税控除対象寄付金指定申請（大阪府 個人の寄付に対する府民税の税額控除）
- ③ 個人市民税控除対象寄付金指定申請（堺市 個人の寄付に対する堺市民税の税額控除）
- ④ 税額控除に係る証明申請（内閣府 個人の寄付に対する所得税の税額控除）

④の税額控除証明を取得するには、3000円以上の寄付金を支出した者が過去5年間の平均で、100人／年以上いることが条件となるため

2019年4月よりフレンド会員（年会費3000円）の募集を始める

(6) 理事会・社員総会

- 決算理事会 2019年6月11日（火）14:00～16:00

理事・監事改選・・・現在の理事の任期は2019年6月28日の社員総会終了時まで

定款第23条第1項 専任後2年（監事は4年）以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

現理事の皆様は2017年10月1日就任

- 通常社員総会 2019年6月28日（金）10:30～12:00
- 予算理事会 2020年3月中旬予定

(7) 楽団員人事・採用

1) オーディション（楽団員採用）計画

2019年度の楽団員採用計画は無し（2018年2月のオーディションで採用した1名の入団が4月以降）

第一段階の目標である、2管8型54名編成を目指し、2018年度までに空席楽団員のオーディションを実施いたしました。2018年3月現在53名（うち給料契約者48名）の楽団員を確保（2014年時点で給料契約者36名、4年間で12名の増員）。

今後3か年計画で2管10型（5名の増員）、5か年計画で3管10型（さらに5名の増員）、最終的に3管12型を目指します。

2) 出演ポイントの引き上げ

楽団員の確保に一定のめどがついた現在、次の課題として、現役楽団員の待遇改善を図っていかねばなりません。

楽団の経済状況悪化に伴い、2013年度に年間80公演以上の出演に対する手当を、1公演15,000円から5,000円に引き下げ、その後現在まで据え置いてまいりました。（年間約8,000千円の経費削減）

2020年度までに、ポイント金額を1公演5,000円から10,000円へ引き上げるべく収入増を図る努力をしてまいります。（約8,000千円の支出増、公演数・楽団員数が増えている為、経費も増）

3) 有給休暇取得率のアップ

有給休暇取得率は2015年度実績37.5%、2016年度実績43.7%、2017年度41.0%となり少しずつ取得率はあがってきていますが、まだまだ低い水準です。今後は有給休暇取得の義務化の法律に則り70%台へ取得率改善をめざしてまいります。

しかし、オーケストラの場合有給休暇を取得した際、必ず代行奏者を客演で雇わなければならない、その経費が2015年実績で約3,800千円、70%台となると約8,000千円の経費負担となります。（約4,000千円の経費増）働きやすい職場環境を整えていく観点からも、これらの経費は避けて通れない部分でありますので、さらなる収入増を図っていかなくてはなりません。

(8) 楽団事務局

2019年3月末時点で17名体制となり楽団事務局の体制は、ほぼ整いましたが公益社団法人化後を見越し、さらなる体制の強化を図っていきたいと考えています。

1) 2019年度の採用計画

2018年度末までに3名の退職者がでましたので、その補充も含め

事業制作担当	1名	(事務局長が兼任している事業制作分野についての専任スタッフの採用)
広報営業担当	1名	(担当者不在である主催公演のチケット販売等営業専任スタッフの採用)
舞台スタッフ	1名	(2018年度末の退職者の補充)
経理担当	1名	(数年後に定年退職を迎える職員の引き継ぎのため)

2) 待遇改善

楽団の経済状況悪化に伴い、2013年度に事務局員給料をボーナス全額カット、基本給減額により平均27%減額(約1440万円削減)、現在も据え置いています。

公演数も増えてきており、一人当たりの仕事量も増えてきている現状を鑑みて、早急に待遇改善を図っていかねばなりません。

3) 退職引当金の計上

2018年度に3名の退職者が出たため、退職金の臨時支出がありました、現在の予算でも引当金の計上ができておらず、収支バランスの改善を図り、来るべき時に備えなければなりません。